

反射材を付けませう

～しないくん無情剣～

その晩、
城下では
恐るべき戦いが
行われていた

キエエーッ

んぬーッ

しないくん

やああーッ

フッフフ、
もはやこれまで
だな……

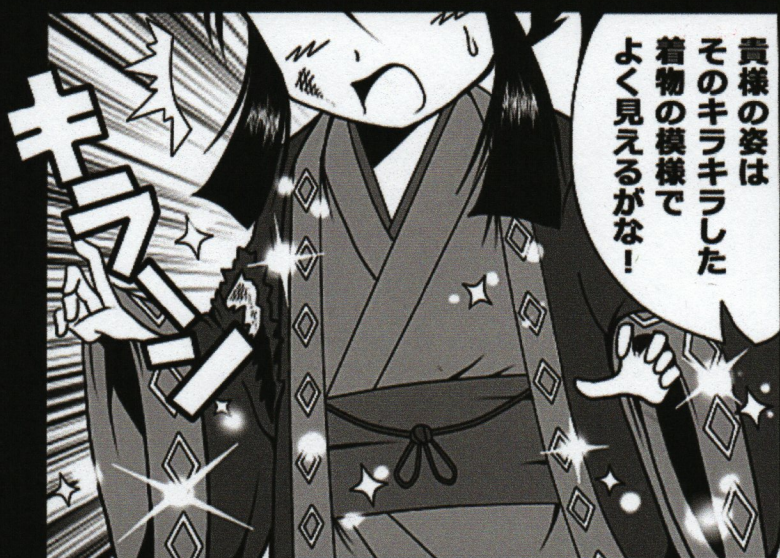
あっ!?



何とでもほざけ！
貴様を倒して
名を上げさえできれば
いいのよ……



くそっ、
闇討ちとは卑怯な……
それでも武芸者か！



貴様の姿は
そのキラキラした
着物の模様で
よく見えるがな！



フッフ……
黒に染め上げた
この姿……
闇の中では
見切れまい……



何奴！

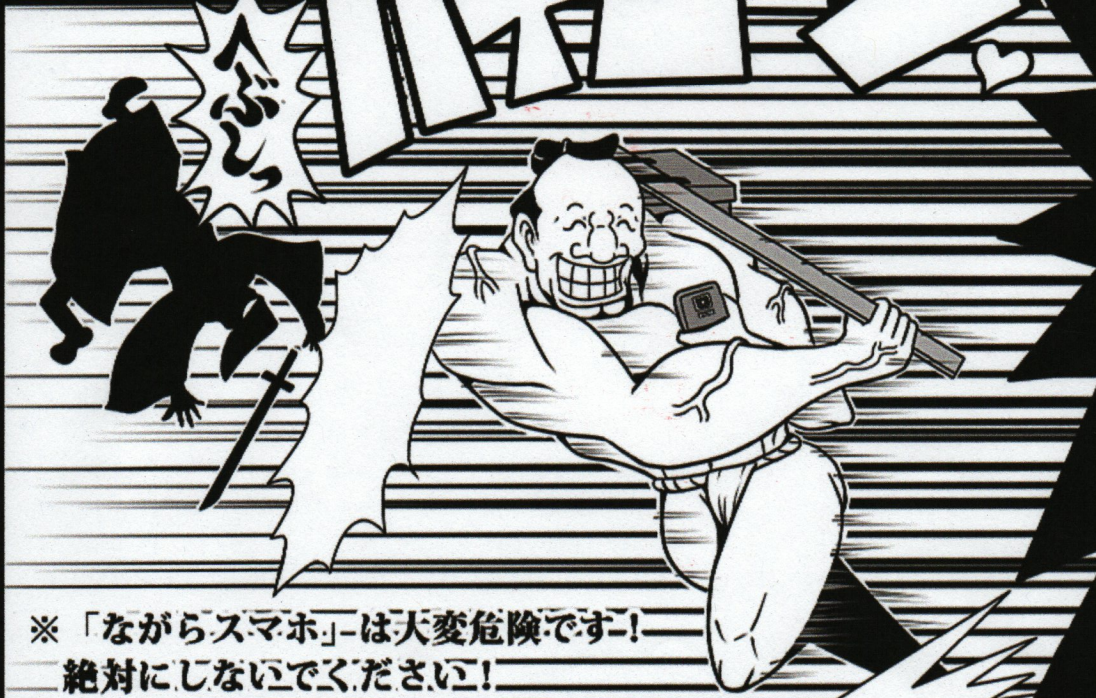


己の
うかつさを
悔やむことだな……
むっ？

う……ぬう、
ぬかったわ！

バチゴーン

飛脚ですけど
何か？



※「ながらスマホ」は大変危険です！
絶対にしないでください！

もんすたあじやなくて
サムライをぶつとばして
しまったぜい！

そして
この笑顔

流行りのアレを
やりながら
走っていたら

おっと
いけねえ！

どっぽーん

77

ええーッ？



そんなわけで
アバヨ—ッ！



でもこんな暗いのに
あんな格好してたら
気が付かないのも
無理はないぜ！

注…だから事故を起こしても良いというわけではありません！

…何コレ？

だがこの事件が
公になったことで
「夜道は光るものを
身に付けていれば
安全である」という

単純ながらも確実な
自己防衛の手段を
人々は知ること
になったのである

根性

郷土史に見る
交通警察

それからというものの城下では
キラキラした装飾品を
作ることが盛んになって
町は大いに栄えたんだワン！

これが現在の
反射材のルーツに
なったんだワン！
(フィクションだワン)

反射材って
スゴイ！

みんな！
反射材
付けよーね！

鍵かけ
キーちゃん

ほあんくん